

# 文化ファッション大学院大学

令和7年度 大学機関別認証評価  
評価報告書

令和8年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構



## 文化ファッション大学院大学

## I 評価結果

## 【判定】

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

## II 総評

各基準の評価、大学が設定した独自基準、大学が挙げた特記事項は以下のとおりである。

## 各基準の評価

基準 1. 使命・目的	満たしている
基準 2. 内部質保証	満たしている
基準 3. 学生	満たしている
基準 4. 教育課程	満たしている
基準 5. 教員・職員	満たしている
基準 6. 経営・管理と財務	満たしている

## 独自基準

基準 A. 国際化
基準 B. 社会貢献・地域貢献

## 特記事項

1. 文化ファッション大学院大学ファッションウィーク (BFGU FW)
--------------------------------------

## III 基準ごとの評価

## 基準 1. 使命・目的

## 【評価】

基準 1 を満たしている。

1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	満たしている
-------------------------	--------

## 【理由】

専門職大学院は、使命・目的及び教育研究上の目的を明確に定め、学内外に対してホームページ等により、また、学生、教職員、役員に対してはオリエンテーション、授業、講師会、理事会等において周知を図っている。建学の精神、使命・目的及び教育研究上の目的に基づき、中期的な将来像を定め、5 か年計画として中期計画を策定し、ホームページ



において公開している。中期計画の基本的目標の達成に向けて、運営会議・内部質保証委員会において「中期計画(2023～2027 年度)フォローアップチェックリスト」(以下「中期計画 FU チェックリスト」という。)を策定し、中期計画に掲げる目標を点検・評価している。

建学の精神、教育理念等を踏まえて三つのポリシーを定め、入学者選抜、教育課程の編成、学修成果の達成に努めている。建学の精神、使命・目的を具現化する教育研究組織として、ファッションビジネス研究科のもとにファッションクリエイション専攻とファッションマネジメント専攻の2専攻を設置し、日本で唯一となるファッション分野の専門職大学院教育を行っている。

教育理念、使命・目的及び教育研究上の目的、三つのポリシーについては、教育課程連携協議会の外部委員による評価を受けるほか、学内の会議体において、見直す必要があるかについて定期的に審議している。

## 基準 2. 内部質保証

### 【評価】

基準 2 を満たしている。

2-1. 内部質保証の組織体制	満たしている
2-2. 内部質保証のための自己点検・評価	満たしている
2-3. 内部質保証の機能性	満たしている

### 【理由】

「文化ファッション大学院大学における内部質保証の方針」において、内部質保証の最高責任者を学長とし、教授会及び運営会議・内部質保証委員会を内部質保証の中核に位置付けている。同委員会及び自己点検・評価を集約する自己点検・評価委員会のもとに、研究科、各専攻、各委員会、教学事務室が自主・自律的に自己点検・評価を行っている。

自己点検評価書、独自の基準による「中期計画 FU チェックリスト」、三つのポリシーや学生の学修成果の達成状況を把握・評価するアセスメントプラン及び学外関係者を含む各種調査を通じて全学的に自己点検・評価を行っている。教学事務室及び法人本部総務部企画課が IR 業務を担い、各種アンケート調査を実施し、分析している。

学生の意見・要望は、授業評価アンケート、学生生活満足度調査、学生会における意見交換の場等において把握し、運営会議・内部質保証委員会、教育・研究委員会、学生生活委員会及び各専攻で具体的に改善を図っている。学外関係者の意見・要望は、教育課程連携協議会において聴取している。内部質保証のための PDCA サイクルとして、運営会議・内部質保証委員会が基軸となり、各種データから自己点検・評価を実施し、問題点を抽出し、自ら改善若しくは当該部門に改善を委ねるサイクル、更に具体的な改善のために各部門・各教員が自己点検・評価を行い、解決策を計画・実行するサイクルを確立している。

## 基準 3. 学生

## 【評価】

基準 3 を満たしている。

3-1. 学生の受入れ	満たしている
3-2. 学修支援	満たしている
3-3. キャリア支援	満たしている
3-4. 学生サービス	満たしている
3-5. 学修環境の整備	満たしている

## 【理由】

専門職大学院は、アドミッション・ポリシーに沿った体制で入学者を受入れ、入学定員を確保している。学修支援では、オフィスアワー制度を設け、学生の要望に応じて個別の面談を行っている。学生生活満足度調査を実施し、ニーズに応じた支援体制を整備している。キャリアガイダンスの開催、履歴書の確認、企業説明会案内、求人案内などの就職支援活動を実施するとともに、就職率の推移を見ながら、外部組織の「OB・OG会」と連携し、卒業後の進路についても支援をしている。学生サービスは、健康管理センターを設置し、学生の身体的健康管理を行い、心身の健康については「学生生活支援室」が対応している。さまざまな文化的背景や個性をもつ学生に対しては、「学生相談室(なんでも相談室)」「学生交流支援室(だれでも談話室)」「障がい学生支援室(学習サポート塾)」が連携し、多様性・国際性に配慮した支援を行っている。中長期整備計画に基づき校舎の施設・設備を管理運営し、学修環境を適切に整備している。学生の学びに必要な備品も整っている。図書館においては、十分に利用できる環境が整備され、学術情報資料や電子ジャーナルも充実している。紀要や一部の貴重書は電子化され、学内にとどまらず学外にも公開し、提供している。

## 〈優れた点〉

○歴史的に貴重な服飾関係の所蔵品を学外へ公開するとともに、授業や研究に有効活用していることは評価できる。

## 基準 4. 教育課程

## 【評価】

基準 4 を満たしている。

4-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	満たしている
4-2. 教育課程及び教授方法	満たしている
4-3. 学修成果の把握・評価	満たしている

**【理由】**

専門職大学院は、使命・目的及び教育研究上の目的等を踏まえ、ディプロマ・ポリシーを策定し、ホームページ等で周知している。単位認定、修了認定基準等は、ディプロマ・ポリシーに基づき明確に定め、厳正に運用している。運営会議・内部質保証委員会においてポリシーの内容と実施状況を定期的に確認している。その検証結果に基づき、改善を図ることによって教育の目的と成果の整合性の担保に努めるとともに、学修成果に基づく評価と学位授与を適正に行っている。

カリキュラム・ポリシーを策定・公表し、理論・実践・研究を統合した体系的な教育課程を編成している。カリキュラムマップを作成し、学生が修得すべき能力を視覚的に理解できるよう提示して主体的・計画的な学修を促進している。教育・研究委員会がディプロマ・ポリシーとの整合性を点検し、実践教育や履修制限を通じて科目構成と学修環境の適正化を図っている。

学修成果の把握・評価方法は、運営会議・内部質保証委員会において策定・検証されている。アセスメントプランを整備し、学修成果の各項目に実施責任者を定め、具体的な指標を設定して調査・点検を行っている。これにより、学修成果の達成度を客観的に評価できる体制を確立している。学修成果の評価結果は、授業内容、教授方法、シラバス作成、学生支援などの改善に反映され、教育の実効性向上につながっている。

**基準 5. 教員・職員****【評価】**

基準 5 を満たしている。

5-1. 教育研究活動のための管理運営の機能性	満たしている
5-2. 教員の配置	満たしている
5-3. 教員・職員の研修・職能開発	満たしている
5-4. 研究支援	満たしている

**【理由】**

学則において学長は意思決定と運営の責任者であることを定め、教授会及び主要な会議において議長になる等、意思決定の権限と責任が明確にされ、学長が大学運営を統括している。主要な会議及び委員会における協議結果は教授会において報告、審議し学長が最終決定している。

「文化ファッション大学院大学 教員組織の編成方針」を策定し、建学の精神と使命・目的を達成するために必要な教員を確保し配置を行っている。任用について各専攻の意向を尊重し、補充が必要な専門領域において公募や推薦による採用を行い、学長が教授会の審議を経て承認し、理事長が任用を決定している。

FD は教育・研究委員会に「FD・SD ワーキンググループ」を組織し「FD・SD 研修目的・方針」に基づき計画し組織的に行っている。授業方法については、ピアレビューや授

業評価アンケートを活用し改善を行っている。SD は全学で実施する研修会と経験年数・担当業務に応じて参加する研修会が実施されている。

研究環境については継続的に改善計画が実施され整備されており、研究室も限られた面積を有効に活用し整えられている。研究倫理は「研究活動不正防止及び対応に関する規程」をはじめとし、各種規則が整備され厳正な運用が行われている。

## 基準 6. 経営・管理と財務

### 【評価】

基準 6 を満たしている。

6-1. 経営の規律と誠実性	満たしている
6-2. 理事会の機能	満たしている
6-3. 管理運営の円滑化とチェック機能	満たしている
6-4. 財務基盤と収支	満たしている
6-5. 会計	満たしている

### 【理由】

「学校法人文化学園 寄附行為」において法人役員、評議員、会計監査人の職務及び組織運営に係る事項を明示して、服務規律において教職員の義務等を明確にしており、これらの諸規則に基づいて法人を運営し経営の規律と誠実性の維持に努めている。

法人の目的達成のために運営体制を整え、中期計画に基づく事業計画により運営している。理事会は定時理事会のほか必要に応じて臨時理事会を開催している。理事会を構成する理事の定数、役割、選任機関等は寄附行為に明記し、事業の継続性及び使命・目的の達成に向けた意思決定ができる体制を整備している。

評議員の選任は寄附行為に従って行っており、候補者推薦の結果を尊重すること等が諸規則に定められ多様な意見が反映される体制が整っている。寄附行為において理事が評議員会に出席することを定める等、理事会と評議員会は相互に連携し意思疎通を行っている。

中期計画に基づいた年度ごとの事業計画が立てられ、財務については中長期財務計画を策定しそれに基づき安定した財務運営が行われている。収支バランスについては、法人全体では不動産収入による収益事業部門からの収入が寄与し経常収支は黒字が保たれている。

会計処理は学校法人会計基準や経理規程等に基づき適正に行われている。私立学校法及び私立学校振興助成法に基づき、監事の立会いのもと監査法人による会計監査が実施されている。また、監事や監査室による内部監査も実施されている。

### 〈参考意見〉

○専門職大学院単体では数年にわたって教育活動収支差額、経常収支差額、基本金組入前収支差額がマイナスとなっており、付随事業収入の増加の努力もされているが引続き収支バランスの確保に向けた努力が望まれる。

## IV 独自基準

基準 A. 国際化
A-1. 国際交流の方針と体制
A-2. 国際交流の推進

## 【概評】

国際交流の方針は、建学の精神にのっとり「中期計画 FU チェックリスト」を設けている。国際社会で活躍できる人材育成の推進を図り、国際交流を推進するための体制が整備されている。海外における活動拠点として、ソウル、台北、パリ、バンコクの4か所に事務所を持ち国際交流のサポートや海外ネットワークを構築している。

海外の大学院との学生間交流プログラムを実施し、教育の国際化を推進している。海外企業等に対して特別講義を実施し、国際的な認知度を図るために、海外企業との交流を行っている。「中期計画 FU チェックリスト」に沿って PDCA を回し、幅広い国及び地域との国際交流プログラムを計画、推進している。

基準 B. 社会貢献・地域貢献
B-1. 社会貢献・地域貢献の推進

## 【概評】

専門職大学院は、教育課程の一環を企業の社員教育養成プログラムとして活用する企業受託研修を行うとともに、企業や地方自治体などと共同でさまざまな産学官提携プロジェクトを実施している。これらは、高度専門職業人として求められる理論と実務の双方の能力を統合的に育成する教育システムとして特筆すべき取り組みである。企業受託研修や産学官提携プロジェクトを通じて、学生は企業や地方自治体と協働し、現実の課題解決に基づく実践的学修を行っている。特に、企業から提供される原材料を活用した作品制作や展示活動は、単なる制作実習にとどまらず、素材開発・企画・発信までを一貫して経験するプロセスとなっており、創造性と実務能力を同時に養う教育効果が高い。

また、プロジェクトの成果が企業活動や地域振興へと還元されることで、教育の社会的波及効果を実現している点も特筆される。加えて、企業側からのフィードバックが教育課程の改善に活用される仕組みが構築されており、理論と実践の往還型教育の好循環が確立している。これにより、学生は実務現場での課題発見・提案・実行のプロセスを主体的に体験し、即戦力としての専門性と応用力を身に付けることができている。教育内容と社会実装が有機的に結びついた実践事例である。

## 特記事項（自己点検評価書から転載）

### 1. 文化ファッション大学院大学ファッションウィーク（BFGU FW）

- ・本大学院は、研究成果の発表の場として、文化ファッション大学院大学ファッションウィーク（以下「BFGU FW」という）を平成 21(2009)年より毎年 1 月末から 2 月初旬にかけて開催している。BFGU FW は、院生の研究成果の発表を通して、新たな知財創造ビジネスの可能性を見いだす場として位置づけている。革新と進化が求められるファッション産業界において、クリエイション、ビジネスの視点から多様な価値観を提案することを目的としている。
- ・第 17 回目の BFGU FW は、令和 7(2025)年 1 月 27 日(月)～31 日(金)に開催し、来場者数は約 3,100 人、企業や団体 22 社から後援・協賛・協力を得た。各専攻と各コースの開催内容として、ファッションクリエイション専攻は、ファッションショーと展示形式で研究成果を発表した。ファッションショーでは、2 年次「修了研究・創作」の学内審査により選抜されたファッションデザインコースの 10 人が一人当たり 7 体の作品を、ファッションテクノロジーコースの 5 人が一人当たり 2 体の作品を、自らスタイリング、ヘアメイク、演出等を手がけ、発表している。展示では、1 年次は「基礎研究・創作」2 年次は「修了研究・創作」で制作した作品の展示を行った。ファッションクリエイション専攻の教員、並びにファッションビジネスに従事する学外の審査員が研究成果を評価している。ファッション経営管理コースでは、1・2 年次生全員が研究成果を発表する研究発表会を開催した。1 年次生は「先行研究プロジェクト」、2 年次生は「修了研究プロジェクト」の研究成果を口頭で発表している。発表会には、ファッション経営管理コースの教員と院生、文化学園内の教職員が出席し、評価担当教員が研究成果を評価した。また、オンライン上での作品発表として、ファッションクリエイション専攻による 3DCAD 作品、株式会社 ZOZO NEXT とのコラボレーション「BFGU×Project Drip」、ファッションデザインコース 2 年次生によるビジュアル作品集「BFGU MAGAZINE」があり、平成 29(2017)年から国際交流を行っているチェコ国立プラハ応用美術大学（UMPRUM）のファッションショーの映像も国際交流の一環として掲載した。



- ・BFGU FW は、院生の研究発表の場と同時に企業や団体との産官学連携の成果を発表する場ともなっている。以上のとおり、BFGU FW は次代のファッションビジネスの方向性を示唆し、国際的に通用する新たな知財創造ビジネスの可能性を見いだす場として機能している。